

平成27年度第1回東成区区政会議 保健福祉部会 会議録

1 開催日時 平成27年6月17日（水） 15時から16時まで

2 開催場所 東成区役所 3階301会議室

3 出席者の氏名

【委員】

長田 栄一（保健福祉部会議長）、上田 利明（保健福祉部会副議長）、
桂 洋子、五嶋 キクエ、野坂 万喜子、橋本 輝枝、宮田 孝夫

【東成区役所】

森本 万喜子（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、河合 宏成（総務課長）、
笹部 毅（区政推進担当課長）、中川 正己（保健福祉課長）、
西山 明子（児童・保健担当課長）

4 委員に意見を求めた事項

- （１）平成26年度東成区運営方針の振り返りについて
- （２）平成27年度東成区予算概要（子ども・教育部会）について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

○笹部課長 よろしいでしょうか。皆様、本日は、非常にお忙しい中、東成区区政会議、保健福祉部会にご出席いただき、まことにありがとうございます。

私は、進行を務めさせていただきます東成区役所、区政推進担当課長の笹部です。よろしく願いいたします。座って進めさせていただきます。

まず、冒頭に区長の森本より一言、ご挨拶申し上げます。

○森本区長 皆様こんにちは、今日はちょっと蒸し暑い中、またお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今日、平成27年度の東成区政会議の保健福祉部会の第1回目でございます。いろいろご意見を頂戴したいことがございますので、ご審議のほうをお願いいたします。ちょっと座らせていただきます。

今日の部会では、平成26年度の運営方針の振り返りと平成27年度の予算についてご報告をさせていただいて、評価やご意見を承りたいと思っております。昨年の部会並びに区政

会議でご意見が出たことを参考にさせていただきまして、予算のほうも区長の自由経費と
いうのがあるんですけど、そこには少し予算を市のほうに要求しまして増やした点もござ
います。そこら辺もまた後でご説明をさせていただきます。

昨年度、委員の皆様方からもあったんですけども、なかなか委員の方々に振り返りの
評価をいただくとか、予算のご意見をいただくとかという区のほうの説明に大分時間を要
してしまって、委員の方々のご意見がなかなか言えないじゃないかみたいなことのご意見
もございました。今年度の部会につきましては、後でお願いすることとございますが、そ
の評価とか予算のご意見を伺うことに加えまして、1年を通して委員の方々が部会で何か
一つのテーマについてご議論していただいて、うまくまとまれば本会議のほうにかけなが
ら、予算に活かすということも出てきたらいいなという気持ちも込めまして、そういうこ
とを新たにやっていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○笹部課長 それでは本日の部会の開催状況でございますが、保健福祉部会委員、11名
中7名の委員の方のご出席をいただいております。本部会が有効に成立している旨、ご報
告申し上げます。

次に、本部会の公開についてですが、区政会議に準じた形で公開となっておりますので、
その点一つご協力をお願いいたします。また、本会場にお越しの全ての皆様に申し上げま
す。携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードをお願いしたいと思います。また、
会場内での通話や私語等におきましては、ご遠慮いただきたいと思います。また、傍聴者
の方には、写真撮影、録画、録音につきましては、冒頭のみこれを認めることといたしま
す。

それでは、まず資料のご確認をお願いしたいと思います。

配付資料といたしましては、まず配席図。保健福祉部会の委員名簿。それと、次第。あ
と、平成26年度東成区区政運営の振り返りと、平成27年度東成区予算概要の資料となっ
ております。

それでは、議事に移ってまいりたいと思いますが、その前に先ほど区長の挨拶でもあり
ましたように、区役所のほうから今後の部会の進め方につきまして、一つご提案がござい
ます。

部会は、本会議と比較しまして人数も少人数でありますため、意見も言いやすい、ある
いは議論を深めやすい場ではなかろうかというふうに考えております。そのため、部会と
いう限られた時間を有効に活用いたしまして、多くの意見や提案をいただきたいと考えて
おります。今年は、区政会議の前段に行う従来型のご承認をいただくといった形での部会
に加えまして、各部会でテーマを決めて1年間を通じて検討会なり、学習会といったもの

を行っていくのはどうだろうかというふうに考えております。もちろん、早急に結論を出していくといったようなことが目的ではありません。何分、東成区では初めての取り組みといえますか、試みになりますので手探りの状態になっていくかとは思いますが、委員の皆様から活発な意見交換でありますとか、ご提案をいただければと、そのように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、昨年度の第2回の区政会議以降、一部委員の交代が生じておりますので、私のほうから新委員のご紹介をさせていただきます。委員の方は、その場でご起立をお願いしたいと思います。

東成区医師会からの推薦委員といたしまして、^{かわかみあきら}川上 朗 さんに代わりまして、^{ながたえいいち}長田 栄一 委員でございます。

○長田委員 よろしく申し上げます。

○笹部課長 さて、これまで保健福祉部会で川上委員につきましては、議長を務めていただいております。今回、退任ということになりましたので、議長席が空席というような形になっております。そのため、部会議長の選出をお願いしたいと思います。できれば、皆様方の中から自薦、あるいは他薦をお願いしたいと思います。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

○上田副議長 僕からでもええかな。

○笹部課長 結構です。

○上田副議長 はい。川上先生に今までやっていただきましたので、その流れで長田委員をお願いしたいと思うんですけども。

○笹部課長 ただいま、長田委員というお名前が挙がりましたが、ご異議ございませんでしょうか。

(拍手)

○笹部課長 拍手をいただきましたので、そのままご承認いただいたというふうに受けとめてまいりたいと思います。

それでは、長田委員には議長席のほうにお移りいただきたいと思います。

(議長席に移動)

○笹部課長 それでは、以降の部会の運営につきまして、長田部会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○長田議長 議長を務めさせていただきますことになりました東成区医師会副会長の長田と申します。よろしくお願いいたします。

議会運営に少しでも役に立てればと願っておりますが、何しろ経験も初めてのことで

し、知識不足もありますので、ぜひとも皆様のご協力を賜りたいと思います。ご指導を受けながら、微力ながら尽力してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、着席させていただきます。

それでは、平成27年度の第1回目の保健福祉部会の議事に入ります。

本日の議題は、平成26年度東成区運営方針の振り返りと、平成27年度予算概要についてです。できるだけ前向きなご意見をいただき、有意義な部会にしていきたいと思います。本日の議題について、区役所より説明を受けた後、委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。その後、先ほど区役所から提案のあったテーマについても話し合いたいと思います。短い時間でできるだけ多くの委員のお皆さんにご意見をお聞きしたいと思いますので、ご協力のほどお願いいたします。

それでは、区役所より説明をできるだけ簡潔にお願いいたします。

○西山課長 はい、それでは説明させていただきます。少し遅れまして申し訳ございませんでした。児童・保健担当課長の西山です。よろしくお願いいたします。

右肩、資料4の26年度の東成区区政運営の振り返りについて、ご説明させていただきます。

まず、経営課題6の保健の部分のご説明をさせていただきます。

6-1の健康づくりの推進というところで、今、区民の皆様の健康寿命の^{えんしん}延伸というのが課題でございまして、課題といいますか、より延伸していくということをめざしまして、まず住民とともに考える健康づくりの取り組みを進めてまいりました。これについては、より身近なところで。

(「何ページかわからない。」という声あり)

済みません、わかりました。今、資料ですけれどもお手元の資料、右肩の資料4、下にページがございまして、まず1ページ目からですね。「26年度、東成区、区政運営の振り返り」となっている資料です。

まず、四角囲みで経営課題6と書いております保健の分野から説明させていただきます。

区民の皆様の健康寿命の延伸ということで、できるだけ身近なところで区民の皆様とともに考えながら健康づくりを進めていく取り組みを進めております。取り組みについては、まず業績目標として地域健康講座におけるアンケート調査で、健康に関心をもった^{こうどう}行動^{へんようしや}変容者、80%という目標を立てておりまして、健康づくり講演会等開催させていただきまして、アンケートを実施させていただきましたところ、健康に関心を持った行動変容者といえますか、健康に関心を持っていた方、89%ということで目標を達成したと考えております。今後の課題としまして、下に四角囲みがありますけれども、より健康寿命を

延伸して、そのためにはより若いうちからということで壮年期の方も参加をしていただいて、壮年期死亡の減少をしていきたいということで改善策としましては、今後この部会の皆様方と今も協働の取り組みも進めておりますが、より一層活性化をしていきたいと思えますし、地域の活動についても協働することによって、より一層参加者を増やしていけるような取り組みを進めてまいりたいと考えております。

次のページ、2ページ目をめくっていただきまして、2ページ目の上、6-2の感染症予防対策ということで、これもまずは自らが進んでできることをより草の根的に地域の皆様の身近なところで進めていこうということで、感染症予防、草の根活動ということで取り組みを進めてまいりました。業績目標としましては、事業に参加された方にアンケートを実施しまして、感染症予防に対する理解度と正しい手洗い方法の継続意向を示す割合、70%以上ということで設定をしておりました。これについては、感染症予防について、より身近に感じていただけるような「手洗いキュッキュッキュの歌」ということで、身近に小さなお子様から正しい手洗い方法を習得しやすくCDを作ったりということで、26年度は幼稚園、保育所等連携をしまして実施をしてまいりました。取り組み実績としまして、普及啓発活動、38回。参加型の教室29回ということで、取り組みを進めている中で、アンケート調査の結果、業績目標に対しまして、正しい手洗いの方法の理解と継続意向をあらわしていただいた方が98%ということで、目標に達したと考えております。今後の課題改善策でございますが、今後もより身近なところで皆様に浸透できますように、27年度は小学校とも連携していくということで徐々に広めていきたいと考えております。

簡単ですが、保健分野については以上でございます。

○中川課長 済みません、保健福祉課長の中川でございます。

続きまして、経営課題7について、ご説明させていただきます。

地域福祉と書いておりますけれども、この具体的な取り組みといたしまして、2ページの下の部分ですけど、①「おまもりネット事業」を活用した高齢者・障がい者等支援セーフティネット構築事業を書いております。これにつきましては、25年度から実施をしておりまして、従来から地域の取り組みでございました「おまもりネット事業」を大きな施策の一つとして、各校下に地域福祉活動サポーターを配置をいたしまして、地域福祉活動を推進するなど、地域の関係機関と連携しながら要支援者に対するセーフティネットの構築に努めておるところでございます。昨年度、おまもりネットにつきまして、なるべく多くの方に登録していただいて、地域とかのつながりを作っていただきたいということから、26年度、登録者の目標は3,000件に設定をしておりました。サポーターを中心に地域で取り組みを進めていただきました結果、27年3月末で、3,304件まで登録数を増やすことが

できました。

また、昨年度につきましては、多様なニーズに応えるとともに、新たな担い手を発掘するために、有償ボランティアの取り組みを進めました。8月に区民センターをフォーラムを開催いたしまして、さらにきづくちゃん「たすけ愛」活動の会を設立いたしまして、仕組みの構築を行ったところでございます。

引き続き地域で見守り等に活用いただくために、要介護高齢者や障がい者などの要援護者の情報、約6,200件を民生委員など地域の方に提供いたしました。

次に、課題と改善策でございますけども、おまもりネット事業につきましては、従来の周知では情報が行き届きにくかった対象に対しましても、幅広く周知を行う取り組みを進めていきたいと考えておりまして、今年度におきましては65歳以上の全ての対象者に周知を行う取り組みを進めまして、登録者のさらなる拡大を図っていきたいと考えております。

次のページの②のほうに行かせていただきます。主な取り組みということで、地域保健・地域福祉推進支援事業でございます。これにつきましては、地域のニーズの把握でありますとか、情報交換とか、地域課題の解決に向けまして意見交換を行う場として、地域生活支援システムというシステムを構築いたしまして、その中で高齢者支援と障がい者支援と子育て支援と健康づくり推進という4つの分野の専門分野別実務者会議を25年度に設置をいたしました。そこに地域の活動者の方でありますとか、専門的な知識を要する機関の職員等の方に参加いただきまして、26年度におきまして定期的開催いたしたところでございます。

業績目標といたしまして、ここに書いてありますが、専門分野別実務者会議の課題解決に向けた意見交換ができていると感じる人の割合が70%以上という設定をしてございましたけれども、構成員の方にアンケートを行いました結果、そのように感じておられる方が54%ということになり、残念ながら全体としては目標を達成できなかったという状況がございます。分野別で申しますと、高齢者支援と障がい者支援につきましては、目標を達成したところでございますが、子育て支援と健康づくり推進につきましては、ちょっと低い結果になったというところでございます。

課題の改善策でございますが、4つの分野におきましてそれぞれの関係機関相互の情報の共有ということを図られていたというふうに考えておりますけども、課題解決に向けた進捗についての差が生じていると考えております。今年度におきましては、参加していただいている実務者会議の関係機関、実務者以外の関係機関とも連携を図りまして、スムーズに課題整理に向けた有効な議論ができるようにコーディネートしていきたいと考えております。

参考までに、昨年度の実務者会議でどういう経過があったかということを高齢者支援の関係の会議の例を引きまして、簡単にご説明させていただきます。高齢者支援の実務者会議におきまして、昨年度は認知症の高齢者の問題を取り上げたところでございます。そこで徘徊して行方不明になった認知症高齢者の方を早期発見する仕組みを地域で作れないだろうかということを議論をしていただきました。会議には、東成警察署からも出席いただきまして、さらに実務者会議の中にワーキンググループを作って細かいところまで検討を行ったところでございます。その際、大阪市の福祉局のほうでも同様の市の新規事業を新たに実施するということがわかりましたので、実務者会議の議論の内容を福祉局のほうに伝えまして、その事業へ反映をしていただくように調整を行ったところでございます。その福祉局の新規事業につきましては、資料で付けております。次のページ、こういう横長のA4の資料をお付けしております。「真に支援を必要とする人々のための福祉施策の推進」という標題がついておりますけれども、こういう形で事業の実施につきましては「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」という名称がついております。今年度からこういう事業で各区社会福祉協議会が大阪市から受託をして、各社協には見守り相談室というセクションを設置いたしまして、そこに福祉専門職のワーカーでありますとか、名簿提供にかかる同意確認を実施する調査員を配置いたしまして、事業イメージにありますけれども、要援護者情報の整理・管理、孤立世帯等への専門的対応、認知高齢者等への行方不明時の早期発見と、こういう3つの機能を発揮することになっております。この3つ目の機能につきまして、実務者会議の議論内容を反映していくために局と調整を行ったということがございます。

以上、参考までに高齢者会議の実務者会議の例をとってご説明をいたしました。今年度も4つの分野の実務者会議で充実した議論ができるように工夫してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

説明のほうは、以上でございます。

○河合課長　続きまして、27年度予算のことにつきまして、ご説明いたします。総務課長の河合でございます。

お手元の資料の資料5というものと、それから別冊で区政だよりの4月号を付けさせていただきますいておりますけれども、その、1面の下半分の部分に「27年度の主な予算をまとめました。」というところがございますので、それと合わせてご覧ください。それともう1つは、A3の表で27年度東成区役所予算事業一覧というのをお手元にお配りしております。合わせてご覧いただければと思います。

まず、27年度の予算でございますけれども、本部会にかかります地域福祉と健康づくり

の充実推進という項目におきましては、先ほども説明がございましたように、26年度の振り返りを踏まえまして、27年度の運営方針または27年度の予算という形で編成をいたしております。基本的な考え方といたしましては、先ほどもご説明させていただきましたように、高齢者や障がい者を地域で支える仕組みの構築が必要ということで、従来から各校下に地域福祉活動サポーターを配置いたしまして、その特性に応じた地域福祉活動を推進してまいりました。その結果、高齢者・障がい者に対するセーフティネットが徐々に構築され、地域で要支援者を支える仕組みが整いつつあると認識はしておりますが、さらにその取り組みを強め、引き続きセーフティネットの充実を図っていくという形で考えております。

27年度の予算といたしましては、資料5の一番上のところがございますように、団塊の世代が後期高齢を迎える時代を見据えまして、自宅での医療や介護に理解を深める講演会等を開催いたしまして、在宅医療や在宅療養についての普及啓発を行いまして、地域や介護、医療機関などの多職種が連携できるような仕組みを構築するというようなことも新たに考えております。

予算額といたしましては、4,039万3,000円を計上しております。主なものといたしまして、その下に重点的な取り組みということで書かせていただいております。先ほどもございました1つ目ですが、「おまもりネット事業」を活用した高齢者・障がい者等支援セーフティネット構築事業ということで、3,118万9,000円を計上いたしております。「おまもりネット事業」につきましては、今もご説明がありましたように平成25年から地域で取り組みまして、登録者も増えてきているところでございますが、27年度はさらに一層区内の高齢者への浸透を図るため、新たに65歳以上の高齢者全員の方に対しまして、個別にポスティングにより事業の概要がわかる案内と簡易版のおまもりカードを同封した周知を行うことで、おまもりネットをより身近なものにし、登録者の拡大を図っていききたいと考えております。

さらに、昨年度に仕組みを構築いたしました有償ボランティアの活用につきましても、地域に広げていく取り組みを本格的に進めまして、ニーズの多様化に対応するとともに新たな担い手を発掘し、多様な主体の連携による地域でのセーフティネット構築をさらに進めてまいりたいと考えております。これらの事業内容の拡充によりまして予算額につきましては、前年度より823万3,000円を増額し、3,118万9,000円を計上しております。

それから、その下でございますけれども、新規項目といたしまして地域に根差した医療・福祉・介護の連携推進事業ということで、647万9,000円を計上いたしております。これは、先ほどもご説明がありましたように、団塊の世代が後期高齢を迎える時期を見据え

まして、身近な地域で高齢者を在宅で支える仕組みづくりが必要になってくるということで、在宅医療や在宅療養に関する地域や医療、それから福祉、介護等の関係者の理解を深めるための普及啓発活動の実施や、これら多職種の人たちが連携するための拠点づくりを支援するという形で、事業化しておるものでございます。なお、この事業は市における区長特別枠として予算が計上されております。

それから、その他の事業でございますが、これは従来から継続しております事業で、そこには例示を挙げさせていただいておりますけれども、地域における保健・福祉活動の担い手や専門性を備えた関係機関の職員による実務者会議の運営費や区民を対象とした啓発事業を行う地域保健、地域福祉推進支援事業。それから保健師が地域に出向き、生活習慣病に関する啓発活動を地域や関係団体等で共同に行う、住民とともに考える健康づくり事業。それから感染症の予防対策として、区で作成いたしました「ひがしなり手洗いキュッキュッキュの歌」と、手洗いチェッカーを利用した啓発活動を児童や高齢者などに行う感染症予防「ひがしなり手洗いキュッキュッキュの歌」事業など合わせまして、272万5,000円を計上いたしております。合わせまして、この地域福祉と健康づくりの充実推進という項目で、先ほど申しました4,039万3,000円を計上いたしました。ちなみに26年度、この分野での計上額が2,560万3,000円でございますので、約1,500万円程度の増加を図って算出をいたしております。

ご説明は以上でございます。

○長田議長　　ただいま区役所より説明がありましたが、何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。10分程度、意見交換を持ちたいと思うんですが。

○森本区長　　ちょっと補足をさせていただきますと、本来は自己評価というのは、お手元の横にあるこれがホームページとかに載るものなんですけど、去年もありました。これは市が作ったもので、ちょっとわかりづらいというのが去年もありまして、その中で主な事業について、ご議論いただいたらいいかなということで、その中で重点的にしているものを先ほど課長が説明したみたいな形に移させていただいているというふうに考えていただければどうかと。その総括の評価というのは1ページ目になっているというのが、これが本体だというふうに思っただけだと思います。

予算につきましては、いろいろここでご議論いただいて、先ほど課長も申し上げましたけれども、地域で認知症についてのお話がありましたが、ちょうど局でも認知症に関する事業をやりたいということで連携をとらせていただいて、局のほうで予算要求をいたしました。また、先ほど申しました医療、福祉、介護の在宅サポートの事業につきましても、皆様方のご意見をご参考にさせていただきながら、先ほどの区長の充実枠と言いましたの

は、24区全体での予算がありまして、それを要求して認められると幾らか予算がつくという仕組みを利用させていただいたということとして、その点を補足させていただきます。よろしくお願いします。

○長田議長　　今の区長さんの意見、ご報告も含めて何かご意見はないでしょうか。

○上田副議長　　あの僕かまへんのやね、言うても。自分の個人的なことになるんですけども、この「おまもりネット」に関してなんですけども、私、今年1月、50年ぶりに入院いたしまして、それも救急車で運ばれましたので、自宅でそういう症状が出て、それから救急車で運ばれたんですけども、それからこれは「おまもりネット」に登録しとかんと道端でひっくり返ったときにどこの誰やわからんかったらいかんなどと思って早速申し込みまして、それでカードができてもらったんですけど、これだけではちょっと具合悪いさかいに、病院の診察券と保険証と「おまもりネット」と一つの袋に入れてあちこち、今日も今持って来てますけども、どこに行くにも持ち歩くような形で、やっぱり「おまもりネット」があって、もし道端で何か起こったときにこれは絶対必要やなど、切実に今年になってから感じまして実行いたしました。そんなことを皆さんに宣伝しているんですけど、「何か起こったらあかんで。」ということをするんですけど、なかなか何かないと必然性を感じてくれはらへんのですけど、やっぱり実際そういう自分の身の上にそんなことが起こると、しとかないかんなど。使わんほうがええんですけども、それこそお守りやと思って持っております。

○長田議長　　他に。ちょっと医師会の立場からの意見なんですけど、今、副議長の上田さんから報告がありました「おまもりネット」なんですけど、これ非常に大切なものやと考えておりまして、医師会としては区民全員が「かかりつけ医」を持つ。誰に医療の面で相談したらええんやとか、在宅も含めてどのようにしたらいいんだというようなことを医師会の窓口を作って取り組もうじゃないか、という事業をやっているんですね。だから、区民全員が「かかりつけ医」を持つ。困ったことは医師会の地域連携室、今のところは地域連携室でいいと思うんですが、そのようなところに相談を持ち込んでもらうというような計画で走っております。この「おまもりネット」というのは、今のところ非常に詳細に書かれていて、そのためちょっとかさが大きい気もしているんですね。場所によってはもっと小さなカード式のところもありますし、ある区ではこういうペットボトルの中に書いたものを放り込んで冷蔵庫に放り込んどいたら水害にも強いやろうというような感じでやっているところもあります。その方法はいろいろあると思うのですが僕は今のところ、この「おまもりネット」の充実、普及というのがまず最初に非常に大切じゃないかなと思います。非常に、これは有意義なことだと思いますね。

他には。

○上田副議長　　２ページにあるこの感染予防、6-2、一番てっぺんですね。これ、予算額は書いてありますねんけども、今韓国でM E R S が流行ってますやんか。これがもし日本で飛び火してきたら、この予算で間に合うかどうか知りませんけども。あれも感染症やからね。

○西山課長　　今、韓国のほうで流行っているということですが、特に医療機関のほうではやっているということで、韓国から帰国された方ももちろんいらっしゃるんですけど、医療機関に係っておられる方がいた場合にはやはり近いところもございますし、何かあったときには即対応できる体制をとっていくということで、区役所のほうで特別予算を作って何かをするというよりは、国、関係局というたら大阪市ですね。と、区が連携をして即連絡体制をとって、即対応するという体制をしっかり作っていききたいというふうに思います。

○上田副議長　　僕は昔から夏でもマスクして走ってますので、かからんと思いますけどね。

○西山課長　　そうですね。お一人お一人がそうやって、気をつけていただくということが非常に重要だなと。

○上田副議長　　僕はM E R S 予防のためにマスクしとるんと違うんですよ。僕は、子どものときに扁桃腺を切りまして、その手術した跡、のどちんこの横がえぐれているんですよ。そこにほこりがたまりやすいんですよ。ほこりがたまると咳が出ますよ。咳が出たら「おまえ、結核ちゃうか。」と言われたらかなわんの、そないならんようにマスクし、それで水でのどを潤すわけです、いつでも。そしたら、ここでは咳しないでしょ。そやなかったら、結核と疑われたら大変やので、そのためにやっているだけです。

○西山課長　　そうですか。わかりました。ありがとうございます。

○野坂委員　　済みません、いいでしょうか。6-1の健康づくりの推進のところで、健康寿命の延伸。壮年期死亡の減少のためということで、いろいろと健康講座をされているようなんですけど、うちの地域でもされてたんですけれども、やっぱり壮年期の方を対象ということでありましたら、平日ではなく日曜や土曜日も健康講座というのは開いてもらえるのでしょうか。

○西山課長　　実はちょっと２年ぐらい前に夜間のほうの取り組みをさせていただいたんですけど、少し周知も不足してたんだと思うんですけれども、参加者がちょっと少なかったというところもありまして、その辺はより効果的な進め方というのを検討していきたいなと思っております。

○野坂委員　　よろしくをお願いします。

○長田議長　　他にどなたか。

それでは、まだご意見があるかと思いますが、平成26年度の東成区運営方針の振り返りについて、議論を終了いたします。承認してまいりたいと思います。

では、次に区役所からの提案がありましたとおり、この部会で1年間の研究するテーマを決めていきたいと思います。忌憚なくご意見をいただきたいと思いますので、何かご意見がある委員はお願いしたいんですが。

○西山課長　　委員の皆さんのご意見でいいんですけれども、今ちょっと委員からご指摘があったように、壮年期からの死亡といいますか、より健康寿命を延伸するという意味では、若いころから健康づくりに意識を持つということが非常に重要だと思っております。今のご意見も一つかと思いますが、より若い方、今健康の取り組みをしたときには、やはり集まって来られる方の年代層が高いというところもございますので、より若い層が興味を持っていただいて、参加していただけるような。健康づくりに限ったことではなく、恐らくまちづくりとか全てに共通するのかもしれませんが、より若い方にこういった取り組みに参画していただけるような、そういうことのより効果的な進め方はないのかというようなことをテーマとして取り上げていただいたらどうかなということもございます。一つの案として、議論のたたきとして、皆様のご意見いただけたらと思います。

○長田議長　　その点はどうでしょうか。

○五嶋委員　　私、さっきから聞かせていただいて、これも見させてもらって、読ませてもらってたんですけれど、健康寿命の延伸ということが書かれてまして、これ22年度だけでも全国と東成区というのが健康寿命というのが、大体同じというように感じるんですけれど、ここで健康づくりの講演会とかいろいろありますけれども、これは保健師さんが来てのお話だけで、私、健康って保健師さんのこのお話だけではなく、毎日の食生活というのがいかに大事であるかということ、それによつて健康だと思うんです。人間、食べていかなければ生きていけませんので、まずそこにもうちょっと目を向けていただきたいなと思うのが、これを送っていただいてじっくり見させていただいた中の意見なんですけど、ちょっとお考えいただきたいと思います。

長野県が健康寿命日本一になったというのは塩分を控えたからという、その塩分を控えるためには塩分測定を持って、各家庭を訪問したというのが一番大きなものだというのが今言われて厚生省もそれをずっと私たちの会合、全国会議のときなんかでも、それを言われてますので、やっぱりそういうふうなところも少しでもそういうふうなところに力を入れていただけたら、もう少しみんなもそれに向かつていけると違うかなと思うんですけ

れど。

○長田議長　　いかがでしょうか。今の五嶋委員のご指摘のとおりだと思うんですね。医食同源という言葉どおり、医と食というのはまさしく同じ、口から入るものというのは毒にもなるし、薬にもなるということなんですね。そうしますと、やっぱり食事の日常の予防も兼ねてどのようなものがどういう病気にはいいのかというようなことを踏まえた講演内容といいますか、本年度はそういうのを取り入れて行けばどうかなというふうに今感じましたですけど、他に何か。

○上田副議長　　それと僕も病院に通院している身におきますと、長年の生活習慣でこれは体がまいってきているんやなというのがよくわかりますね。たばこの吸い過ぎ、僕は吸いませんけども、酒の飲み過ぎ、それから睡眠時間が短いとかいろんな不健康なことがありますので、健康で長生きするために今言うてはる食生活と、いわゆる生活習慣、この2つが基本やと思いますね。だから、それはどういうふうにしたら健康で長生きできるかというのが1年間のテーマに一番ええんと違うかなと思いますね。それしか他にないと思うので。

○長田議長　　何か1年間のテーマの方向性が出たような感じはしますけれども。

○桂委員　　私もさっき言いはったように、若い方が今から考えていくのが一つの案としてもっともやと思うんですけど、うちの主人なんかでも60ぐらいです。今、定年退職した55歳以降の70までの人がお家の中にいてる人のほうが多いんですわ。

それで、そういう感じでお酒の飲み過ぎとか食事の今のちゃんとしたことができないので、何ぼ主婦の口から言っても自分自身の頑固なところが男の方は大いにあるので、そういうふうな感じで中高年、若い人ももちろん大事なんです。でもそういうふうに、今団塊の世代の人がお家の中にいてはる人が、物すごくいっぱいおって運動不足とかそんなんがあるので、そういうふうなことも啓発的にして、講演会とか区やったら区、まちやったらまちの中で、講演みたいなのをしていただいて、出てきていただいてしていただいたら、要支援とか要介護予防につながるん違うかなと思うので、そういうふうなこともお願いしていきたいと思うんですけども。

○長田議長　　どうですか。いわゆる生活習慣ということが非常にクローズアップされる。健康とは絶対に切り離せないものですからね。せつかく、東成区にいますので、区というのは歴史的由緒あるところもありますので、そういうのをめぐるような「歩こう会」みたいなものがあってもいいかなと思うんですね。そういうので、運動をやったりとか、推進するときにも役立つかもわかりません。

はい、どうぞ。

○西山課長　　今、五嶋会長とかが言っていたように取り組み実績のところの書き方がこうなっているんですけれども、区役所としまして、それこそ食推さんとかと連携して、あるいはうちの区役所に栄養士がおりまして、食生活、食生活に限らず生活習慣に関しても保健活動は総合的に実施しているのは実施しています。この健康づくり講演会のところで皆さん、三医師会もそうですが食推さんも地域の団体さんもお協力いただいておりますので、我々としても区役所が健康づくりといったときに保健師活動だけではなくて総合的に進めておりますということをまずご理解していただいていると思っておりますが、ちょっと確認をさせていただきたいと思っております。ですので、今後とも総合的に正しい生活習慣をとる形で区役所のほうももちろん進めておりますので、引き続き皆様方と協力しながらと思っております。

それとあと年代の意味で若い方ということも大事ですし、確かに高齢の方はこれからどんどん増えていくわけでありまして、やはりやりがいとか、生きがいとか、そういったことが介護予防に回っていくというところもありますので、そういったことも大切なテーマかなと、先ほどの食の話でもやっぱり低栄養になりがちという部分もありますので、そういうのも含めて高齢者のより健康的な生活ができるような環境も非常に重要なことかなと、区役所としては認識おりますので、その辺も踏まえていただいてよりいいテーマといえますか、今後につながるテーマを皆さんのご意見で決めていただけたらいいかなと思っております。

○長田議長　　そのテーマは今日じゃなくていいですか。

○森本区長　　今日できたら今、例えば何か事例を探して頂戴とか言ったら、さっきおっしゃってましたように、長野の事例はこんなんですよとか、若い人をターゲットにしているところでこんなのがありますよというのをこちらで集めてきて、またご意見をいただくので、今皆さん、数人の方からご意見いただいているのは健康寿命を延ばすためにとかということになるのでしたら、また次回のときにその材料をそろえたりしますので、できましたら今日お決めいただけたらいいかなと思います。すごく積極的に皆さんのご意見いただいてありがたいと思いますので。

○長田議長　　健康に対して、いわゆる生活習慣も踏まえてのテーマということであれば、区長さんが今おっしゃった中に「健康寿命を延ばすために」と、これをやれば全て含まれているような感じもいたしますけれども、どうでしょうか。

○宮田委員　　いいです。

○長田議長　　講演会を開くのも、絞られるとちょっと選びにくいですが、幅広くやっておけば講演もしやすいと思いますし、ある方の食事はこんなんだというような、パ

チッと撮って、これどこがあかんというような講演もできますでしょうし、おもしろいかなと思いますけども。

○宮田委員　　よろしいですか。健康づくりというテーマって物すごいいいと思うんです。それを去年、うちの地域のほうでもやったんですけど、そのときに、はっきり申しまして、区役所から講演会をやると言いはったんですね。何ぼ偉い先生の話聞いたって健康にはなれんやろうと言うたんですけどね。例えば、今議長がおっしゃったようにまち歩きとか、いろんなことをやりながら、その中で講演会をやらな人は聞いてくれないんですよ。

「誰が、どこどこの先生が来ます。物すごい偉い人なんです。」と言うたって、どうでもええんですよ。それよりも遊びの中で、食生活にしたってそうだと思うんですよ。やっぱり遊びの中で何でもやっていかな、しんどくなると思うんですよ。来る人もやっているほうもしんどなってくると思うんですね。だから、そういうふうなことを考えましたら、これ部会って5つに分かれてますかね。

○森本区長　　3つです。

○宮田委員　　3つか、ごめんなさい。それ全部関連していると思うんですね。だから、これ1年でどれだけできるかと言うたら、物すごい問題になってくるんですけど、3つの部会のテーマを寄せ集めてこの区政会議の各部会が動いていったら、よりいいものができると思うんですね。

といいますのは、例えばまちづくりというものがありますよね。まちの魅力ですかね。そしたら、その辺のまちをテーマにしていきはるから、この健康づくりをそういう中に持っていてもいいわけなんですよ。そしたら、もっと幅広いものになると思うんです。さっき、桂委員がおっしゃった団塊の世代、完全に閉じこもっているんですよ。地域社会に出られへんのですよ。というのは、今までが地域のことをやってはらへんかったから入れないというか、はっきり言いまして今の地域社会というのは入れてくれないんです。だから、その人らが活躍できる場というのをこういう健康づくりとか、この部会では、そういうふうなことを作っていくというのも大事だと思うんです。だから、健康づくりというテーマ、言葉といいますと物すごい広いものだと思うから一番いいと思うんです。あとは他の部会とどう絡んでいくかということが大事だと思います。

○長田議長　　ありがとうございました。そしたら、そういうテーマで「健康寿命を延ばすために」という、そういうテーマでどうでしょうか。

（「結構です。」という声あり。）

○長田議長　　それじゃ、そちらの方向でお願いいたします。

○宮田委員　　ただめだったら、方向は変えたらいいと思います。

○長田議長　そこから絞られるものが出てきてもいいと思いますね。

皆さん、意見を活発に言っていただいたおかげで、非常に時間の経過も早く感じますが、そろそろ時間も経過して来ておりますので、一応テーマについての意見交換を終わらせていただきたいと思います。

いろいろご意見もおありかと思いますが、本日の議題は終了し、次の部会においてより詳しく意見交換が行われたらと思います。

それでは、区役所の方に進行をお返しします。よろしくお願いします。

○笹部課長　議長を初め、委員の皆様方、スムーズな議事の進行にご協力いただき、まことにありがとうございました。なお、本日皆様方から頂戴いたしましたご意見につきましては、今年度の東成区の区政運営でありますとか、来年度の運営方針の作成に当たっての参考にさせていただきたいと考えております。

また、来週の6月23日には、区政会議の本会議を開催する予定になっております。各部会からの報告をそこで行っていただくというような形を予定しておりますので、ぜひとも出席のほうをよろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成27年度の第1回目の保健福祉部会を終了させていただきます。長時間、ありがとうございました。

—— 了 ——

6 配付資料 添付のとおり